

和泉市回答

中学校の少人数数学級についても検討している 通級指導教室の各校設置をめざしている

十一月二五日、泉北教組は、職場から寄せられた切実な要求を基にした「教育要求書」の交渉を和泉市教育委員会と行いました。主な内容を掲載します。（その1）

少人数数学級について

【回答】

小中学校の少人数数学級については、府・国に対して要望を継続する。市独自の小中学校の35人以下学級の措置など市費負担による教員加配については、平成29年度9月から、小学校3年生算数の少人数指導に係る非常勤講師を配置している。また中学校の少人数数学級についても検討している。

※波線部分は、今年度新たに追加された回答です。

【交渉での追加回答】

◆少人数学級の必要性について認識している。

評価・育成システムについて

【回答】

「評価・育成システム」については、学校組織の活性化及び教職員の資質向上を図るべく実施する。要望があることは、府に伝えていく。

【交渉での追加回答】

◆校長会でいいねいに説明を行った。

◆課題があるという意見があることを府教委に伝えていく。

◆会計年度任用職員については、次年度の任用や人事には利用しない。

学習指導要領について

【回答】

教育法規に照らして、学習指導要領に準拠するとともに、公教育としての立場から、府・市教委が示す基準や留意事項等に基づいて、各学校で編成するものである。

【交渉での追加回答】

◆教育課程の編成権は学校にある。

空調設備について

【回答】

今年度は中学校体育館へ空調設備を完備した。その他未設置の教室への設置は、今後の検討課題であると認識している。また、メンテナンス等への対応については、予算確保に努める。

【交渉での追加回答】

◆家庭科室や理科室など特別教室への空調設備設置については、必要性を感じており、今後の検討課題である。

◆メンテナンス等は、市教委で対応する。

チャレンジテスト すくすくウオッチについて

【回答】

チャレンジテストは、学校が生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図ることや、生徒が自らの学

力に目標を持ち、その向上への意欲を高めることを目的に実施されるものであり、参加する必要があると考えている。また、中止の申し入れは困難であるが、そのような声があることは伝える。小学校すくすくウオッチは、児童の学力を把握・分析すると共に、教育施策の成果と課題を把握・検証し、その改善を図ることを目的に実施されるものである。参加する必要があると考えている。また、撤回を求める声があることは伝える。

【交渉での追加回答】

◆「チャレンジテスト」・チャレンジテストに対する意見については府教委に意見を上げていく。

◆「大阪府新学力テスト（すくすくウオッチ）」

・設問の数が多すぎるなどの問題点は府教委に意見を上げていく。

・現段階で結果の公表を行う予定はない。

障害児教育について

【交渉での追加回答】

◆通級指導教室の各校設置をめざしている。

学校水泳について

【回答】

モデル校において効果測定、課題の整理を行い、段階的に民間屋内プール施設の活用をすすめていく。

【交渉での追加回答】

◆令和4年度は、モデル校を増やす。モデル校はまだ決定していない。

◆令和5年度以降、段階的に民間屋内プール施設の活用をすすめていく。

◆和泉市の学校水泳の良さを継承し、発展させていく。

